

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

○令和8年度 第1回「健笑庵のぎ」運営推進会議

対象事業所名：(有) ケアサポートことぶき「健笑庵のぎ」

サービス種類：地域密着型通所介護事業所

開催日：令和8年5月27日(水) 14時30分

開催場所：健笑庵のぎ

出席者：6名 《内訳》

事業所(担当者)	2名	利用者	1名
利用者家族	1名	知見を有する者	1名
包括支援センター	1名	地域代表者	0名

【議事・議題】

1. 活動状況

1) 利用状況(令和8年5月現在)

登録者数 (設置基準別) 合計：36名	総合事業通所サービスA(緩和型) 8名 (男性：1名、女性：7名)					
	総合事業通所サービス(従前型) 9名 (男性：1名、女性：8名)					
	地域密着型通所介護 19名 (男性：1名、女性：18名)					
介護度別利用者数	事業該当：5名		要支援1：1名(内、緩和型0名)		要支援2：11名(内、緩和型3名)	
	要介護1：13名		要介護2：4名		要介護3：2名	要介護4：0名 要介護5：0名
利用回数状況	週1回：13名	週2回：11名	週3回：9名	週4回：1名	週5回：0名	週6回：1名
各月総利用数 (稼働日数)	11月：314名 (25日)	12月：316名 (25日)	1月：279名 (24日)	2月：247名 (22日) *積雪の為2日休業	3月：300名 (26日)	4月：278名 (26日)
日平均利用者数	12.5人	12.6人	11.6人	11.2人	11.5人	10.6人

2. 活動報告(令和7年11月～8年4月)

1) レクリエーション活動(*主なものを抜粋)

11月	・クリスマス飾り作り ・玉入れゲーム ・ビンゴゲーム ・誕生会
12月	・クリスマス会 ・絵馬作り ・音楽レク ・ツリーゲーム ・誕生会
1月	・新年会 ・書初め ・すごろくゲーム ・輪投げゲーム ・誕生会
2月	・節分行事 ・キャプつかみゲーム ・誕生会
3月	・ひな祭り行事 ・桜花見外出 ・壁画作り ・ペットボトルゲーム ・誕生会
4月	・桜花見外出 ・音楽レク ・ボウリングゲーム ・誕生会

2) 日曜デイサービス(*この期間の実施はありません)

3) その他

- ・歌唱活動、個別活動(脳トレドリル、創作活動、塗り絵、パズル等)
- ・防災活動(年間2回程度の実施)

4) 今年度行事・活動計画(R8.4～R9.3) *主な行事の予定です。

R8. 4月	・桜花見外出	10月	・運動会
5月	・鯉のぼり見学	11月	・紅葉見学 ・文化祭
6月	・紫陽花見学	12月	・クリスマス行事 ・忘年会
7月	・七夕行事	R9. 1月	・新年会 ・書初め
8月	・納涼祭	2月	・節分行事・
9月	・敬老会	3月	・ひな祭り行事

3. 相談および苦情受付状況・事故報告(令和7年11月～令和8年4月)

1) 相談苦情事例 *この期間での発生、受付はありません。

2) 事故事例

①施設内移動時の転倒

- ・発生日時：令和7年11月25日(火)14時頃
- ・状況：要介護3の歩行器使用の女性利用者A氏、午睡後にトイレ誘導の際、トイレ入り口付近の下りこう配、歩行器の動きに足がついていけず、バランスを崩して転倒。右額をトイレ入口の柱に強打する。裂傷(+)、出血(+)。直ちに止血を行う。その他に外傷は見られない。受け答えには応答でき会話ができる。歩行は可能。医療機関への受診手配を行う。
- ・発生の要因：直ぐ傍らに対応者が付き添う中で起きた事故である。過去にも同様な事故が発生している場所であることから、住環境的な改善（手すりの設置、入口戸の変更、滑り止めの設置）に取り組んでいる場所でもあった。このことから改めて対応の方法について再検証の必要ある。
- ・今後の対応：個人の身体状況を十分に意識した個別対応に心がける。そのためには組織として再三の点検と確認が必要である。

②服薬忘れ

- ・発生日時：令和8年4月29日（水）
- ・状況：要介護1女性利用者B氏 パーキンソン病（+）。来所後に昼食後薬が無いことに気が付き、家族に確認する。家族外出中で、昼過ぎに連絡が取れ、薬を受け取る。本人は午睡中であり、午睡後に服用してもらうことにして、所定の保管場所に保管した。その後、対応予定の者がほかの対応に追われてしまい失念してしまう。翌日30日、所定の場所にB氏の薬が残っていることで、服薬忘れと気が付く事態となった。
- ・発生の要因：送迎時の確認不足とその後の責任の所在が不明であったことが要因と考えられる。
- ・今後の対応：家族との連携と職員間の連絡及び確認が不十分だった為に起きた事例である。今後は家族様との日常的な連携と服薬管理において、職員間で情報の確認、業務日誌でチェック確認の徹底を行う。また、預かり薬の置き場を目立つように工夫して服用の忘れを防止する。

3) ヒヤリハット対象事例 *この期間での発生はありません。

4. 研修会等の状況（令和7年11月～8年4月）

1) 外部研修、及び連絡会（集団指導含む）

- ・R8. 1. 29 令和7年度高齢者虐待防止研修会（オンライン参加）
- ・R8. 2. 3 令和7年度「人権・権利擁護研修」（オンライン参加）
- ・R8. 3. 6 令和7年度第1回介護事業者集団指導（オンライン参加）
- ・R8. 4. 10 第2回介護事業者集団指導（パワーポイント研修）
- ・R8. 4. 24 令和8年度第1回ブロック連絡会

2) 内部研修の状況

- ・R8. 1. 30 虐待防止について
- ・ 2. 20 業務継続計画（感染症に関わって）研修
- ・ 4. 17 コンプライアンスに関わって

3) その他、職員の資質向上に向けた取り組みの状況

①情報共有の機会の確保：昼礼及び朝・タミーティングを基本とする。

②ケース検討会及び勉強会をも兼ねた事業所研修会の開催：月1回

*入浴に係る研修会（年1回）も兼ねる

③全社内部研修会：6月毎1回開催

④その他：虐待防止に係る研修会（年1回）

業務継続計画に関わる研修及び訓練（年1回）

感染症対策に係る研修会及び訓練（年1回）

5. ボランティア受け入れ状況（令和7年11月～令和8年4月）

1) 行事活動へボランティア参加状況

*この期間での受入れはありません。

6. 今年度専門委員会並びに研修計画

1) 専門委員会

【業務継続計画担当委員会】

回数	開催月	内容
第1回	12月	・今年度活動の計画・業務継続計画の現状と課題、見直しについて
第2回	1月	・研修及び訓練についての計画など

【虐待防止検討委員会】

回数	開催月	内容
第1回	1月	・虐待に係る社内の状況と課題についての確認・社内研修のについて

【感染症予防対策委員会】

回数	開催月	内容
第1回	12月	・感染症対策の現状について・研修及び訓練についての計画などについて
第2回	1月	・感染症の現状確認・社内研修について

2) 社内研修会

実施月	研修項目	内容	実施状況
4月	コンプライアンスに関わって	・関係法令改定について・運営規程の確認	実施済
6月	業務継続計画①	業務継続計画に関わる研修会：現状と課題、見直しについて	
7月	通所介護の現状課題について	サービス事業所連絡会（外部）を受けた社内研修会	
8月	事業所研修会①	入浴関連研修会	
9月	苦情対応について	苦情解決研修会（外部）を受けた社内研修会	
	業務継続計画②	訓練（シミュレーション）[自然災害に関わって]	
10月	事業所研修会②	ケース検討会：認知症対応について	
12月	虐待防止について	虐待防止の状況と対策について	
1月	業務継続計画② 兼感染症対策研修会	研修及び訓練（シミュレーション）[感染症に関わって]	
2月	事業所研修会③	ケース検討会等	

7. 現状と課題

1) 事業所運営のコスト増加による運営への影響について

原材料に始まり、人件費など、すべてのコスト増加が運営を逼迫しているのが現状である。特に公的な介護報酬のみに頼らなければならない小規模事業所にとっては運営を維持していくことが課題となっている。

2) 人材確保について

中長期的にみて、人材育成も含めた若手介護職員の確保が、非常に難しくなっている。短期的には60歳以上の人材の採用を積極的に行っている。サービスの質を維持していくための組織力が課題となっているが、小規模な事業者においては地域に密着した取り組みを実施していくためには非常に有効な担い手であると感じている。

8. 報告に対する意見および要望

＜意見・要望＞

- ・『健笑庵』デイサービスに長らく通っています（11年利用中）。色々な方と交流できることに楽しみにしています。
[利用者]
- ・要支援2の利用者の家族ですが、利用当初は緊張して通えるだろうかと心配していたが、スタッフに同郷出身の方がおり、比較的スムーズに慣れたようで安心しました。徐々に話友達も出来、現在では、週2回利用から週3回利用（1回は自費利用）しています。最近、精神面に変化が出現していて今後、継続して通えるかを心配しています。
[利用者家族]
- ・介護サービスを利用する際に介護度による利用サービスの違いがよくわかりませんでした。特に要支援・要介護では違いがあるようで、どのような介護サービスがうちの家族に利用できるのかわかりませんでした。デイサービスの職員の方に聞くと教えてくれるので勉強になりました。
[利用者家族]
- ・物価高騰で事業所側も経営が大変で事業所を閉鎖される事業所もある話も聞きますが御社のデイサービス事業

を中止にしないで欲しい。通っている利用者や家族が困るので事業を続けて欲しい。毎月発行されている事業所の通信も楽しみにしています。[利用者家族]

- どの事業所でも課題になっていることだが、人材不足で人材確保の問題点がある。どの事業所もギリギリの人数で稼働している現状である。若手の人材育成も含め、子育て世代の方を中心に働きやすい環境を整えるよう努力しているが若手の方からの応募が少ない。この度、シルバー人材センターからの派遣社員の活用方法を聞き、今後参考にしたいと思う。60歳以上の方々はコミュニケーション能力が高い人達が多く、若手職員の苦手のところをフォロー対応してくれるので良いと感じます。[地域介護事業所所長]

＜質疑応答＞

Q. 介護の養成学校等は入学者が減少傾向。介護士養成現場でも卒業者が少ない状況の話を聞く。介護に携わる人を育てること自体が困難な状況になってきている。行政も外国人を上手に雇用してくれる流れになってきている状況で先が読めない。基本的に日本に来る人達は能力的に優れていると思うが今後、外国人雇用は考えているか？[地域介護事業所所長]

A. 日本に来る人達はコミュニケーション能力的に優れていると思うが外国人雇用については文化や言葉の違いがあり、ニュアンスの違いや雰囲気の違いが難しいのではと感じている。現時点では当事業所としては考えていない。

Q. 人材確保について、シルバー人材の問い合わせは多いか？[包括支援センター]

A. 70歳以上の方からの応募が多い。

Q. 介護度別は前年度と同じか。また、総合事業者の人数設定しているのか？[包括支援センター]

A. 比較的、軽度の方が多い（総合事業対象者と要介護1が多い）、総合事業人数は設定していない。

※事業所確認欄

☐ 活動報告についての評価を受けることができたか。	○
☐ 要望・助言等受ける機会を設けたか。	○